



なぜ小日本主義か

浅野 純次

(経済倶楽部理事)

▼今年も賀状の話から始めましょうか。同年代の人からは悠々自適と健康の話題か、同好サークルなどでの仲間との勉強の話が多くなりました。去年は○○ガンにかかって治療したが別の個所にまた出たとか延々と闘病の話を書いてこられる人が何人もいて大変だなあ

と思いつつも、自分の病気を告知することの心理に思いを致しました。もつとも私も「左手のしびれが首のせいか右脳、芸術脳が危ない…」のせいか心配です」などと賀状に書いたのだから他人様のこととは言えませぬ。「当方も左腕にしびれが出ております」などとい

う同病相憐れむ(笑) 返信もいただきました。

▼「謹賀新年」だけの賀状が多い中で、最長はひささんからの34字×30行。専門のドイツを論じて小論文(字も虫眼鏡級)の気配ですが、両者の中間くらいがありたいですね。いちばん気に入ったのはYさんの「優しい小日本をつくるべき時に、強い大日本を目指せうという人たちが舞台で見得を切っていて、人間の尊厳より国という入れ物を大事にする。見たくない景色の広がる予感が…」という一文でした。

▼暮れの毎日新聞に石橋湛山の主治医だった日野原重明さんが、領土問題解決に「今こそ小日本主義を」と主張するインタビュー記事が載りました(12月24日)。湛山は、領土は小さい「小日本」でも「縄張り」としようとする野心を捨つるならば戦争は絶対不起こらない」と喝破した、我々も領土問題では歴史を認識しその自覚の上に尖閣、竹島、北方四島問題を再検討したらどうか、日中、日韓境界近くの資源は共同開発し利益を折

半したらよいということです。100歳でなお「今の政治や外交には愛がないね。損得条件の話ばかりで、精神がない」などと元氣一杯、正論を吐いています。

▼海原に屹立する岩の島もさることながら日本にとってより重要なのは世界へ向けて胸を張れる哲学、史観文化といったソフトパワー的な力でしょう。湛山は「朝鮮、台湾、樺太、満州という如きわずかばかりの土地を棄つることにより広大な支那の全土を我が友とし、進んで東洋の全体、否、世界の弱小国全体を我が道徳的支持者とする」とは、いかばかりの利益であるか計り知れない(『大日本主義の幻想』)と言い切っています。領土や武力より心だ、道徳だ、信望だということです。

▼小日本主義といふといかにも小さく縮こまった敗北主義的印象を受けますが、領土や武力以外の面ではむしろ世界へ大きく羽ばたけという主張がセットになっています。産業や科学や文化で敗戦日本が世界を相手に活躍することは可能だと石橋湛山は終戦直後の論説

で予見しました。GDPの世界シェアが何%に落ち込むなどという予想に一喜一憂するより、今こそ視点を変えて日本を世界に冠たる道徳国家、教育国家にするほうが正解なのではないかと感じます。大米国、大中国と同次元で競うなどなんの価値もないのだと。

▼賀状で金メダル級だったのは横手市在住の湛山研究者、川越良明さんからの「ようやく出羽印刷のところに石橋湛山の標識と市立図書館の中にささやかな『東洋経済と湛山』のコーナーが設けられました」という知らせでした。東洋経済は戦争末期に秋田県横手に一部を疎開、出羽印刷でしばらく印刷していたのです。湛山も横手へ度々行つては原稿を書き、講演をし、秋田の湯と料理を楽しんでいました。そのことを川越さんはじめ地元の方々が誇りに思い、このような形にしてくださいなのです。ということ、日本はもとより中国やアメリカも湛山に学んだらもう少しましな世界になるのでは、と年頭に改めて思った次第です。